

問題3 次の資格手当の計算に関する記述を読み、各設問に答えよ。

[資格手当の説明]

J社は社内資格制度があり、その取得状況によって資格手当が支給される。

社内資格はA、B、Cの3種類あり、取得状況と資格手当の対応は次の表のように決まっている。

表1 資格取得状況と資格手当の対応

取得状況	資格手当
どれか1つだけ取得	5,000 円
AとBを取得	10,000 円
AとCを取得	5,000 円
BとCを取得	8,000 円
3つとも取得	30,000 円

＜設問1＞ 次の資格手当に関するデシジョンテーブル中の に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

表1を基にしてデシジョンテーブルを作成した。

なお、条件欄の各条件に該当する場合は「Y」、該当しない場合は「N」、どちらでも良い場合は「-」にする。

また、資格手当欄は、該当する額の場合は「×」、該当しない場合は空白にしている。

表2 デシジョンテーブル

条件	Aを取得	Y	Y	Y	N	N	N	N
	Bを取得	Y	Y	(1)	(2)	(3)	N	N
	Cを取得	Y	N				Y	N
資格手当	5,000 円			×		×	×	
	8,000 円				×			
	10,000 円		×					
	30,000 円	×						

(1) ～ (3) の解答群

ア.

-
Y

イ.

-
N

ウ.

Y
-

エ.

Y
Y

オ.

Y
N

カ.

N
-

＜設問 2＞ 次の資格手当を求める流れ図中の に入れるべき適切な処理を解答群から選べ。

資格手当を求めるための流れ図を作成した。
 なお、資格手当は変数 P に設定する。

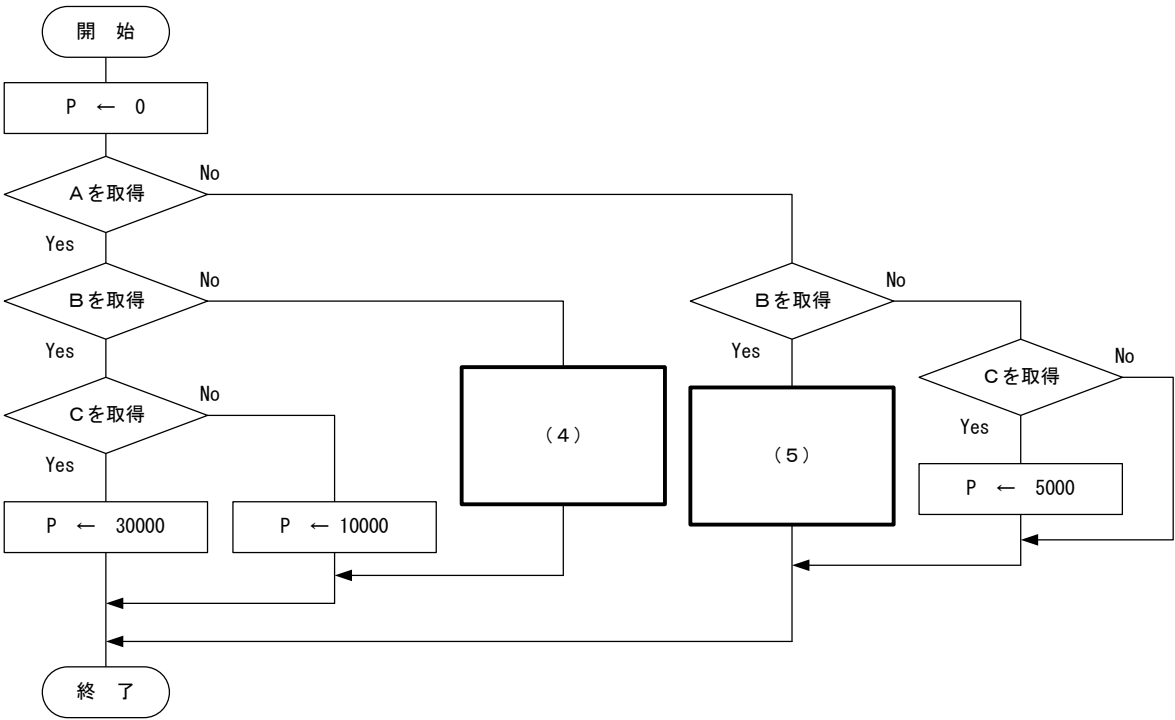
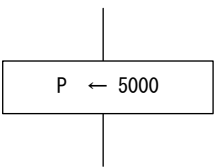


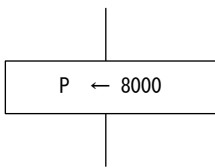
図 1 資格手当を求める流れ図

(4) , (5) の解答群

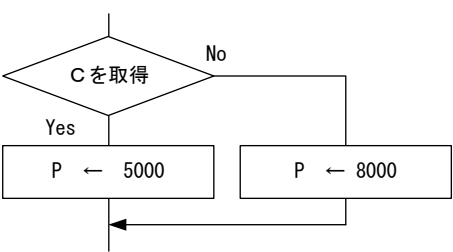
ア.



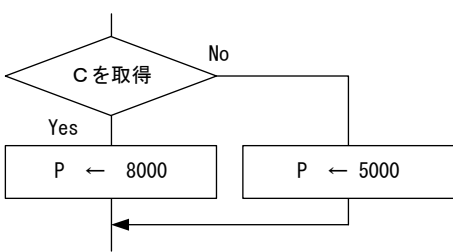
イ.



ウ.



エ.



＜設問 3＞ 次の資格手当の変更に関する記述を読み流れ図中の□に入れるべき適切な字句を解答群から選べ。

J 社は社員のマナー向上を目的としてマナー試験を半年に一度実施しており、この試験の正解率を資格手当に反映させることにした。反映させる正解率と資格手当の関係は、次のとおりである。

- ・ 正解率が 70.0%より低い … 資格手当を 2 割減額
- ・ 正解率が 70.0%以上 90.0%以下 … 資格手当の増減なし
- ・ 正解率が 90.0%より高い … 資格手当を 2 割増額

そこで、図 1 の流れ図の最後に、次のような変数 P に対する処理を追加する。

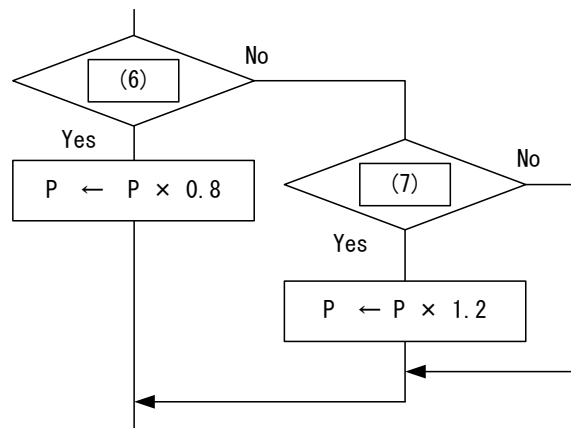


図 2 追加する処理

(6) , (7) の解答群

- ア. 正解率 < 70.0%
- イ. 正解率 > 70.0%
- ウ. 正解率 > 90.0%
- エ. 正解率 < 90.0%
- オ. 正解率 ≤ 70.0% かつ 正解率 ≥ 90.0%
- カ. 正解率 ≥ 70.0% かつ 正解率 ≤ 90.0%

<設問 4> 次のデシジョンテーブルの判断パターンの拡張に関する記述中の に
入れるべき適切な数値を解答群から選べ。

表 2 にマナー試験の判定も含めることを考える。

表 2 の条件に「マナー試験の正答率が 70%より低い」と「マナー試験の正答率が 90%
より高い」という 2 つの条件を追加する。2 つの条件から生じるケース数は 4 になる
が、あり得ないケースが存在するので、 (8) つのケースを考慮すれば良い。

このことから、判断すべきケース数は、以下の式で表せる。

$$\begin{array}{lcl} \text{1 つ以上の資格を取得} & \times & \text{マナー試験の判定} \\ \text{しているケース数} & & \text{によるケース数} \end{array} + \begin{array}{l} \text{資格を取得して} \\ \text{いないケース数} \end{array}$$
$$= \quad \text{ (9) } \times \text{ (8) } + \text{ (10) }$$

(8) ～ (10) の解答群

ア. 1	イ. 2	ウ. 3	エ. 4
オ. 5	カ. 6	キ. 7	ク. 8